

## 安全が当たり前とされる中 安全を守っている社員は評価されていない！

### 「令和7年度運営方針について」経営協議会を開催

名古屋地本は4月11日、「令和7年度事業運営の基本方針」について東海鉄事と経営協議会を行いました。

会社側からの説明の後、松山地本委員長から三点にわたって名古屋地本の主張を行ってきました。

『一つ目として、会社はリニア中央新幹線の2027年開業を断念している。工期の遅れにより建設総工費の上方修正や地域においては水涸れ、地盤沈下も発生し住民へも多大な迷惑をかけている。このままりニア中央新幹線建設を継続すれば、会社経営に致命的な影響が発生し社員へのしわ寄せが懸念される。即刻中止すべきだ。

二つ目は、業務改革の名のもとに効率化が推し進められ、現場社員は疲弊している。今ベアにおいても、世間的にもJR他社にも見劣りする賃上げで、不満が渦巻いている。最近では離職者が各職場で発生しており、危機的状況である。働きやすい職場づくりと賃上げを積極的に行い魅力ある会社にしなければならない。在来線においては未来永劫、鉄路をしっかりと残していかなければならない。

三つ目には、安全は最重要課題であるが、乗務員に対する基本動作の変更がここ数年頻繁に行われ、対応に追われ疲弊している。現場での声が反映されていない。CMCで行ってきた作業等も乗務員が行うようになり、労働密度の増大により睡眠時間も減少され、安全が脅かされている。最早、根性論を唱えるだけでは根本的な対策にならない。また、踏切の特殊発光信号機の見落とし対策として、明滅方の変更を行っているが抜本的な対策になっていない。会社は、業務改革だ効率化だと言い突き進み、メリットの部分だけを持ち上げ、デメリットの部分を深く議論・検討していない。安全が当たり前とされる中、安全確保のために努力している社員より、むしろ業研やワンステップ等の取り組みや結果それ自体に個人の評価が高められている。今一度、鉄事として安全への姿勢を考え直すべきである。』と主張してきました。

尚、主なやり取りについては「業務ニュース」を参照してください。